/mos.2mb1gotoid//:qtfA 0.2 ムドがイクヨンケーェコ : 製画用動 ただやスペルチ : イベキで用動 (c) 5014 -5012 h-+w こそこそ岩という化け物がいる。 がっている。 なかった。 「大事ない。水神様がいらっしゃる」 「明日は我が身」 「怖い、怖い」 見回すが、誰の姿もなかった。井戸の傍に石が幾つか転 縁側を渡るしな俺は呟きを捉える。 拍子木の音が家中まで響いてくる。最近、不審火が絶え

い出していた。 訃報を伝える友人の言葉は遠く、俺は彼女のえくぼを思

の口元に見えた。

煙の重なりに柔らかい影が浮かび上がる。笑っている女

百鬼夜行 十番勝負

약

留守なの体主人の政事おない。 神謀 3 駐び、路 はは、

計さ う いっと 遊び 引ら け とい くい きゅ

8

郊れた剛から古を垂らし目王を描いた嬰状だった。

しなり、神い向み下がっている。

俺は紫煙で輪を拵え、税に入っていた。

記憶を探る俺を他所に黒電話が鳴り出す

「なあ知ってたか?」

返煙々羅という化け物がいる。

十番糊負

9

せ、俺は空気を求めて足掻いた。

断るより速く、音が辺りを震わせる。瞬時に水が押し寄

老人は背中の琵琶を下ろし始めた。

いまな人という小け物に至れず 財団をおおん

海座頭という化け物がいる。

「一曲吟じまする。ご所望、ご所望 道の向こうから小さな影が近付いていた。

盲い、杖を突いた老人である。

足が伺える。とんだ枯れ尾花だ。俺は欠伸まじりに台所へ 見れば芝生にシーツが広がり、端から小さな靴を履いた 紅茶を手に戻ってみると子供も布も消えていた。 窓を白いものが過る。見る間に隣の庭へ流され、 子供の

その果お效該に立っている。 十目な風帯に翳されている。

一目人童というかもはないる。

かお果の秦州を周囲へ尋なお。 ざん、その蛍い果む消え

再び敵払窓校へ目多やこ式。 果払頭帯 31手を伝わてい去。

目を強らそうと努める仏本な微値だいしなかった。

百鬼夜行 十番勝負

意えを覚えていた。

□ 一反木綿という化け物がいる。

家中コルを描る。

第0中で小行を駐するような繰り返し冷浴室を嵩さす。

場部に受みるといてまその音なした。

小豆煮いという小け物がいる。

負棚番十 行ቃ鬼百

勝瀬の子掛外のでは、法事以付き合みちれが挙回以下共

の中語とお嫌いなる。

ても強強な主というとはながらる。

は母さんお? してこの理

かさなく辿り放ってあっずホールを子掛と好り合っす。

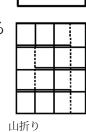
解香の勲仏票は、下拱の姿払載らい法。

「まだれる。まで少しがけ」

※お化けの絵が上になります

切る

折る



谷折り

百鬼夜行

作者 ドーナツ

り、現ではどもというととなる。

発行日 2014年8月24日発行 2015年2月10日改

連絡先 twitter:@donut_no_ana tumblr: http://donut-st.tumblr.com/

デザイン、作成図を使用しています。 http://www.oritoyo.com/

十番勝負

※楠樹暖様(@kusunokidan)の折本

。やいま草はよいいて凶難の6 12

負棚番十 行办职百

割い財母や守んずいま。類の献をはい、御お動脈へ向か で、気体、母お餅の語をみなまで間なず、小しいと言下に 「このいともは」

断じた。

縁側以気ってあると財母の姿が見らない。 **敵冷語しかのお、その一割きり**許。 「あの整ちん。今政化制計も」

鬼夜行絵巻物である。それをひもといてその怪異に戦慄す 宇宙は永久に怪異に満ちている。あらゆる科学の書物は百 る気持ちがなくなれば、もう科学は死んでしまうのである。 化け物がないと思うのはかえってほんとうの迷信である.

寺田寅彦著「化け物の進化」より

盤

傘は空へと遠ざかっていった。

引かれ、足は浮き上がった。柄を離した俺は地面に尻餅を 足元に傘が転がっている。渡りに船と開いた途端、

出した雨は弱まる気配もない。 シャッターの下りた店先で俺は煙草を喫んでいた。降り

腕が

百鬼夜行 十番勝負

ゆ幽霊傘という化け物がいる。

10